

日系史を学ぶ その先を見出す 最終回 日系社会の歴史から 現在、そして未来へ、 ミネドカツアーの先にあるもの

生の声、緑ある土地、遺産。ミネドカツアーで生を体感した参加者が今後どのような活動を行っていくのだろうか。収容所を経験していない人々の姿を多くみかけるなか、彼らが日系史を学ぶ先に何ががあるのか、その声を探る。

日本の若者へ伝えたい

「昨年のツアーでは理不尽な状況や厳しい自然環境を乗り越えた当時の人々の力強さやパッションを感じました」

今夏にシアトル大学を卒業したラウアー・穂治さんは昨年のツアー参加に引き続き、今年はツアー奨学生として運営を支えた。「今年は2世の方々

ら当時の面白い話も数多く聞きました。辛い環境の中でもポジティブに未来を見据えたからこそ、そういった話が残っていると「思います」と、2回のツアーで得た視点を振



ミネドカ収容所跡地でスピーチするシャーロン・富子・サントス州下院議員

り返る。

「ミネドカツアーの内容と収容所跡地の状況をビデオにまとめ、ブログを使って日本人々に分かりやすく伝えよう」と計画しています」と話すラウアーさんの目線は、日系史を知らない日本人、特に若い世代に向く。

「日本の若い人達に、我々の祖先が収容所という環境でも力強く、そしてポジティブに生きていたことを知ってもらい、我々若い世代も同じような気持ちを持つてもらいたいです」

未来のための研究

京都大学人文科学研究所の竹沢泰子教授は日本から参加。ワシントン大学で人類学博士号を取得、研究を通じ日系人にも詳しいが、ツアーでは従来知る日系社会からの変化を感じ取った。

「参加者のなかに、ハバ(＊)をはじめ若い人が多かったこと、またさまざまな非日系の配偶者やパートナーが多かったことが特に印象に残りました。かつての日系コミュニティより、より開かれたコミュニティになっている気がしました」

竹沢教授は収容所経験者との会話で、収容所外での農作業における土壌汚染や健康面にお

ける問題など、文献などで見ることのなかった新しい発見があったと明かす。

「生き証人」の重要性も再認識した。大学講義や日本移民学会では、ツアー内容全般に加え、収容所跡地の復元計画が進んでいる点や、収容所経験者が国立公園管理者の説明案内に修正を加えたことなども伝えた。

竹沢教授は昨秋、カリフォルニア大学ロサンゼルス校でレイン・ヒラバヤシ教授と日系人に関するシンポジウムを共催。今月末には日系人研究に関する日米合同のワークショップを主催するという。

「私はただ1つの理由のために政治家として活動が続けます。私の祖父母、両親、日系社会が、そして米国が負った犠牲、抱いた今後への希望に報いるためです」。ツアー最終日に収容所の「ピクトリー広場」跡地

での慰霊祭で、シャーロン・富子・サントス州下院議員は政治家としての理念を掲げる。

収容所経験は「現在の私たち、そして未来の米国人が正当に夢を追う権利と機会を得る」ことができるきっかけとなると説明する。「米国が建てた原則、アメリカニズムを忘れてはいけません。これは心によるものです。決して人種によるものではないのです」

日系人収容所政策のきっかけとなった大統領例9066号の発令日にあたる毎年2月19日、サントス議員はボブ・ハセガワ州下院議員らと協力、日系人が歩んできた歴史を伝える下院議案を通し続けている。

「70年という月日が経てば、過去のことを忘れてもおかしくないでしょう。だからこそ、我々の親が残してくれた遺産を守り、今後につなげていく努力が一層重要になります」と、それぞれの立場から日系社会の歴史を後世に残す活動の重要性を訴えた。

学んだ先にある出口

70年前の出来事が現在の人々にどれほどの影響を与えているのだろうか。各個人の活動の先にあるものは異なるかもしれないが、共通することは経験者と収容所跡地と

いう生を体感し、それが「何か」を感じ取る点だ。それらは現在、未来のために行動する原

動力となる。学んだ先にある「出口」は違うかもしれない。しかし、「出口」を

作りだすこと、それが70年前から現在まで歴史を伝承しようとする人々が望んだことな

のかもしれない。(記事・写真 兼崎 雄貴)

ことば ハバ：日系人と非日系人の間に生まれた人々の俗称。

Tea House

The North American Post

BUSINESS CARD PRINTING SERVICE HAS OPENED!

MEET WITH OUR STAFF TO DESIGN A PERSONALIZED CARD
TEXT IN ENGLISH AND JAPANESE
INSTANT PRINTING!

スズカ トリス 須坂 トリス 須坂 朗
Travis Suzaka
Program Manager
519 6th Ave., Suite 200 Seattle, WA 98104
Week Phone: 206.235.0100
Cell Phone: 206.735.5762
E-mail: trissuzaka@gmail.com

北米報知
The North American Post
小森 有生
Yusei Komoriya
Reporter
yusei@na-post.com
TEL: 882-222-0000
519 6th Ave. S., Suite 200 Seattle, WA 98104

ROOM RENTAL RESERVATIONS ARE AVAILABLE!

ACCOMODATIONS FOR UP TO 150 GUESTS. GREAT FOR BANQUETS, EXHIBITIONS, AND RETREATS.
PARKING LOT, BEVERAGE CATERING SERVICE, AND SMALLER MEETING ROOM ARE ALSO AVAILABLE FOR A REASONABLE RATE!

FOR INQUIRES AND BOOKINGS, PLEASE CONTACT TRAVIS SUZAKA AT TRAVIS@NAPOST.COM